
はじめてのえすえふ

シャルル＝マクシミリアン・五所川原

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

はじめてのえすえふ

【Nコード】

N1732BA

【作者名】

シャルル＝マクシミリアン・五所川原

【あらすじ】

2ちゃんねるの創作発表板「小説家になろう」で企画競作するスレPart3 (<http://yuzuru.2ch.net/test/read.cgi/mitemite/1319658024/903>)での企画参加作品

「つまり、消耗品なのです」

と、教授は嗤った。

師走の喧騒から離れた喫茶店で、城南大学情報工学科芹沢研究室、年内最後の講義はいつも通りに脱線している。電算機の予約の関係で実験の出来ない時は、こうして珈琲片手に語らうのが研究室の慣わしとなっていた。

俎上の話題は、“SF小説”についてである。

教授を囲む学生三人の中に、山本はいた。SFをこよなく愛する男で、自分でもSF創作を嗜む。

手慰みの代物だから完成度は高くないが、自分でも書く物を尊敬する師から、

「消耗品」

と、貶されては良い気はしない。

「先生、消耗品とはどういうことですか」

「そういうことです」

老教授は教鞭を執る身としては無口な部類であったが、この日はどうした訳か饒舌だった。

新奇な思い付きも、誰かが書いてしまえば陳腐なものになる。読者の側は目新しいものにしかな価値を見出さないから、次々と新しいものを創りださないことには価値が無くなってしまふ、と理路整然とした論調で断じた。

表情は柔和だが、舌鋒は鋭い。

が、山本はそれは違ふと思ひ、

「先生、しかし古典のSFには古典のSFの良さがあります。例えば、物語性であるとか」

という、教授はしたり顔で、そうです、SFとしての価値は消

耗され、物語として残るしかないのです、と笑った。

「いずれ、全てのサイエンスフィクションは費消されてしまうでしょう。SFの“熱的死”です」

その後のことは、どうなるか分かりませんが。

(そんな、莫迦な)

SFが、“熱的死”を迎える。

その言葉は、山本に深い絶望を与えた。

全てのSFが消費尽くされ、人類には全く新しいSFが齎されなくなる。

それは、途轍もなく恐ろしい想像だった。

この日の談義はそのまま話題を変えて流れてしまったが、山本的心中には奇妙なわだかまりとして、長く残ることになる。

それから、二十余年が過ぎた。

あの日、珈琲片手にSFの未来を否定した師は、既がない。

情報工学の中でも人工知能の分野で名を挙げた山本は、ついに積年の疑問を解く為の研究に着手出来るだけの立場と資金を手に入れた。

空冷された部屋の中で、電算機が低く唸りを上げている。

山本の研究は、一種馬鹿げたものだった。

”非ノイマン型コンピュータによるSF作品の自動生成”と名付けられたこの研究は、学界からは冷笑と白眼視を以って迎えらる類いの研究と看做されている。

人の手に因るプログラミングという頸木から放たれたコンピュータ、“ディープソート”にこれまで地球上で書かれたありとあらゆる

るSFのデータを取り込み、それらをお手本として無限にSFを生成するのだ。最新の学術知識をリアルタイムで取り込みながら、常に時代の先端を行くSF作品を生成して行く試みは、事実、全く以って馬鹿げている。

この話題を取り上げたニュースサイトは、記事の最後を「その頃ソ連は中国人SF小説家を雇った」と皮肉ったが、山本はそれも意に介さずにひたすらSF作品の生成を続けた。

毎時一作品だった生成速度は技術の進歩と共にその速さを増し、ついには毎秒一千作品のSF作品が世に生み出されるようになったが、“ディープソート”は唸りを止めることなく、まるで円周率でも計算しているかのようにサイエンスフィクションを生成し続けた。

五年経ち、十年が過ぎた。

髪に白いものが混じり始めた山本は、密かに勝利を確信していた。

(SFは、無限だ)

無限の話題、無限のギミック、無限の組み合わせ。

少なくとも人類が滅亡するまでの間“ディープソート”を稼働させ続けても、SFは尽きないだろう。

そうと分かれば空虚さも感じるが、山本は満たされていた。

何と言っても、死ぬまで読むに困らないだけのSFが既に生み出されているのだ。

そんなことを考えていると、助手の一人が血相を変えて研究室に飛び込んできた。

「教授、“ディープソート”が止まりました！」

エラー内容は、「素材の枯渇」だった。
ありとあらゆる話題、ありとあらゆるギミック、ありとあらゆる
組み合わせ。

それらが全て使いつくされたというのだ。

「おいおい、そんな莫迦な……」

その時、“ディープソート”は再び小さく唸りを上げ、『最新作』
をディスプレイに表示した。

『初めに、神は天地を創造された。』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1732ba/>

はじめてのえすえふ

2012年1月4日12時49分発行